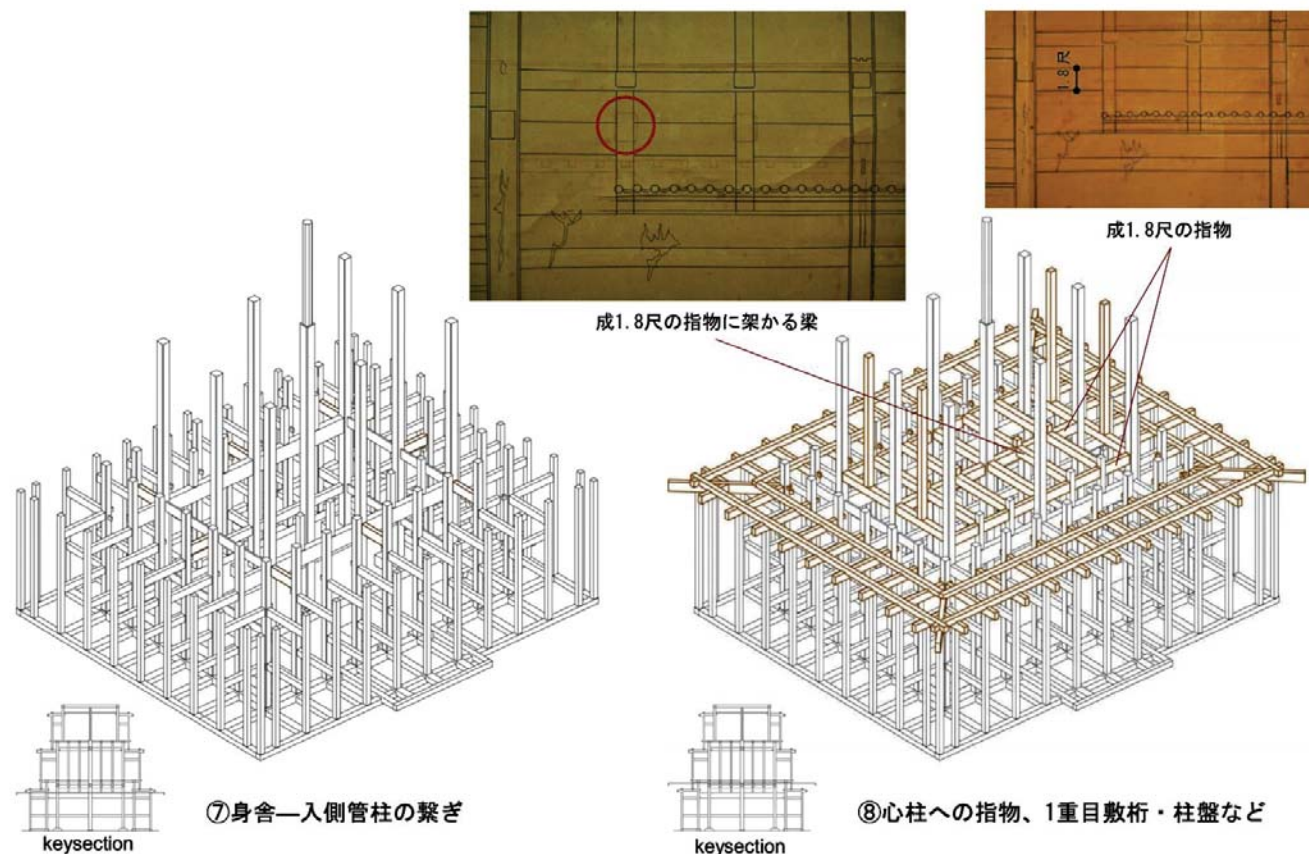




3階床組をこのようにがっちりとした理由は、2階の平面計画によるものと考えています。前回ご紹介したように2階の身舎部分には管柱は建ちませんので、身舎部6間×4間には心柱を含めて通し柱が9本、かなりゆったりとした空間であった可能性があります。

※個々の写真・図版のSNS等への転載はご遠慮ください。

～記念講演会のお知らせ～

小田原城天守調査研究室記念講演「歴史的建造物の復元を考える」

・日時： 2021年5月30日(日) 16:30～18:45(開場 16:15)

・会場： 小田原市民交流センター UMECO

・プログラム

16:30～18:00 記念講演

第一部 「城郭と社寺の復元について」 上田 忠司(竹中工務店)

第二部 「鹿児島城城門の復元について」 菅澤 茂(工学院大学客員教授)

18:10～18:45 研究報告

研究報告と講評 「“小田原城三重天守引図”などの調査について」 宮本 啓(当会研究員)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を延期、中止、ネットでの配信に変更する可能性があります。詳しくは当会 HP にてご確認くださいませ。

特定非営利活動法人「みんなでお城をつくる会」 〒250-0042 神奈川県小田原市荻窪 4385

http://www.odawara-oshiro.org Tel:0465-46-8944 Fax:050-3488-2039 Mail:info@odawara-oshiro.org



市と連携し天守木造を加速します

2021年4月27日

小田原市では、「史跡小田原城跡保存活用計画」を文化庁と歩調を合わせ策定しています。4月時点では、まだその概要版(案)が市のH/Pに掲載されている段階ですが、本編はまもなく公表される予定です。計画書の中には、大外郭からすべての小田原城跡に関して、保存と活用についての基本的な考え方が盛り込まれます。そして本編には、私たちの会が実名入りで登場します。



国指定史跡である小田原城の姿を少しでも現状変更していくためには、何事も文化庁の同意の下に、市の公式な計画に位置づけることが必須であると痛感してきました。当会として、これまでの数年間、小田原市との対話、協議を丁寧に行ってまいりました。非公式ながらも天守木造復原の可能性を検証する目的の会合を何度も持たせていただきました。そして、今回「史跡小田原城跡保存活用計画」において、天守の復元について“NPO みんなでお城をつくる会と協働していく”と明記していただきました。

「史跡小田原城跡保存活用計画」の内容は、文化庁の同意の下に策定され、今後の市のお城を中心としたまちづくりの基本方針となる重要なものです。その中に私達NPOの参画が公となったわけです。

現在、私たちは会費や寄付収入の中から研究費を捻出して、天守模型の解析などを行っております。次の段階として、公の研究機関による本格的な研究検証と木造復原計画の策定が成されるように地道な活動を一步一步積み重ねていくことが肝要と思っています。しかしながら、具現化への速度は確実に向上し始めております。ご期待ください。

小田原市のH/Pには、現在、概要版全8ページが掲出中 (本編掲出は、5月以降)

(<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/global-image/units/462516/1-20201214154056.pdf>)

小田原城天守事始め ～木造天守への道～ 第 17/18 回コラム発信

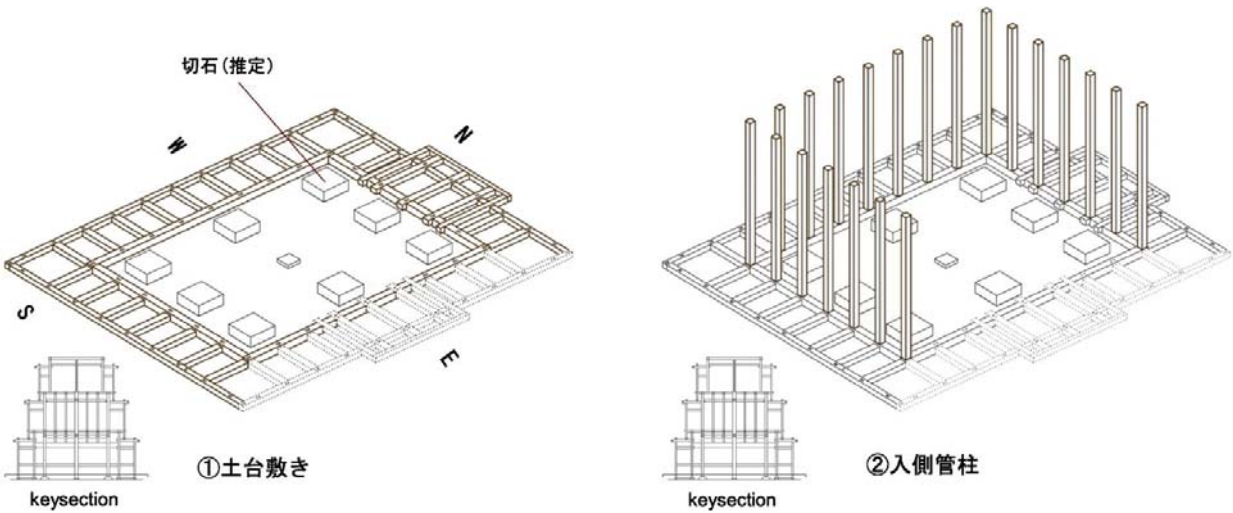
小田原城天守調査研究室 宮本 啓

第 17 回 「東博模型」と「引図」からみた軸部の組み立て方について①

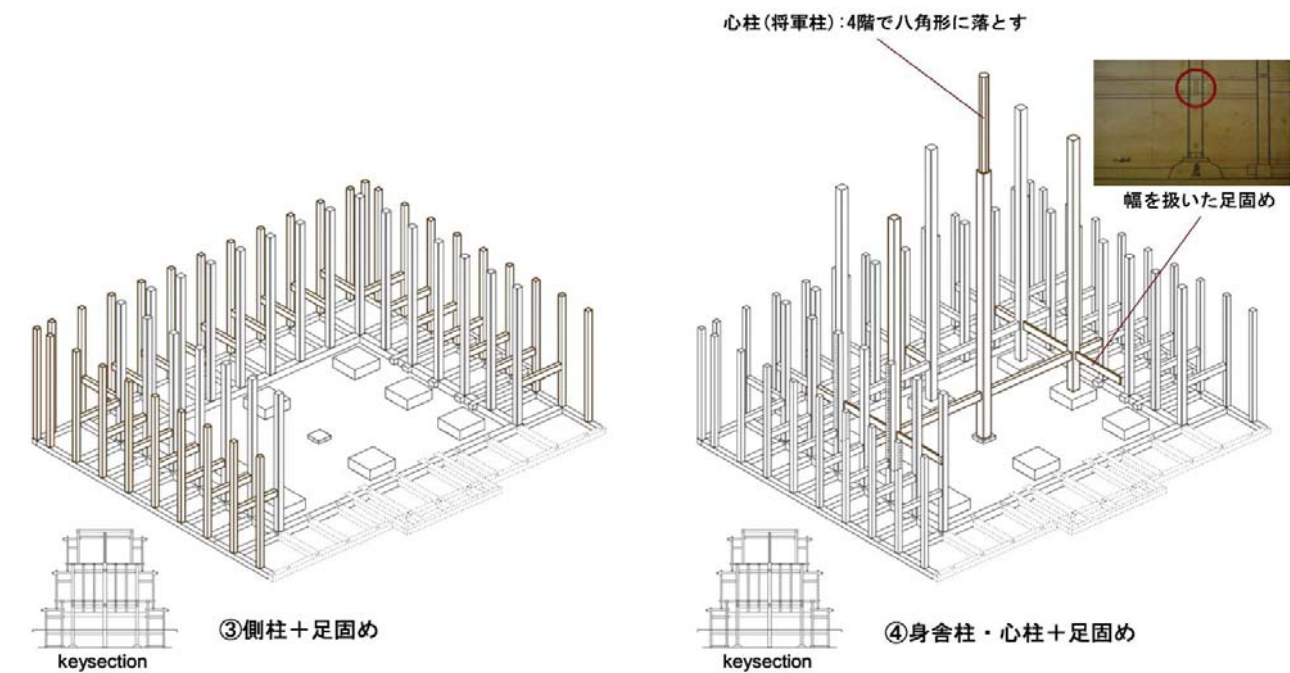
今回から数回に渡り、天守の軸部の組み立て方について推定した内容をご紹介します。あくまでもひとつの可能性に過ぎませんが、体系としての木造技術を捉えるにあたって、このような考察は非常に有意義だと考えています。なお、附櫓・続櫓については割愛しています。

1 階から 2 階

天守台石垣については、古い絵図から、当時も現在のような L 字形式であったとされています。東側（現・本丸広場側）は 2 段になっていますが、勉強不足でその理由までは存じません。全くの想像ですが、ここに荷揚げ用の足場を組んだのかも、などと思っています。



二つの史料から、身舎に土台はなく入側のみであったことがわかります。まず①土台を敷きますが、組み立ての手順からして東側は後で納めたものと推定しました。次に②入側管柱を建てます。この柱でさえ約 9m ありますので、貫を入れながら建てるにしろ柱を自立させるには、身舎部分に足場を組むなど、相応の工夫があったものと思います。



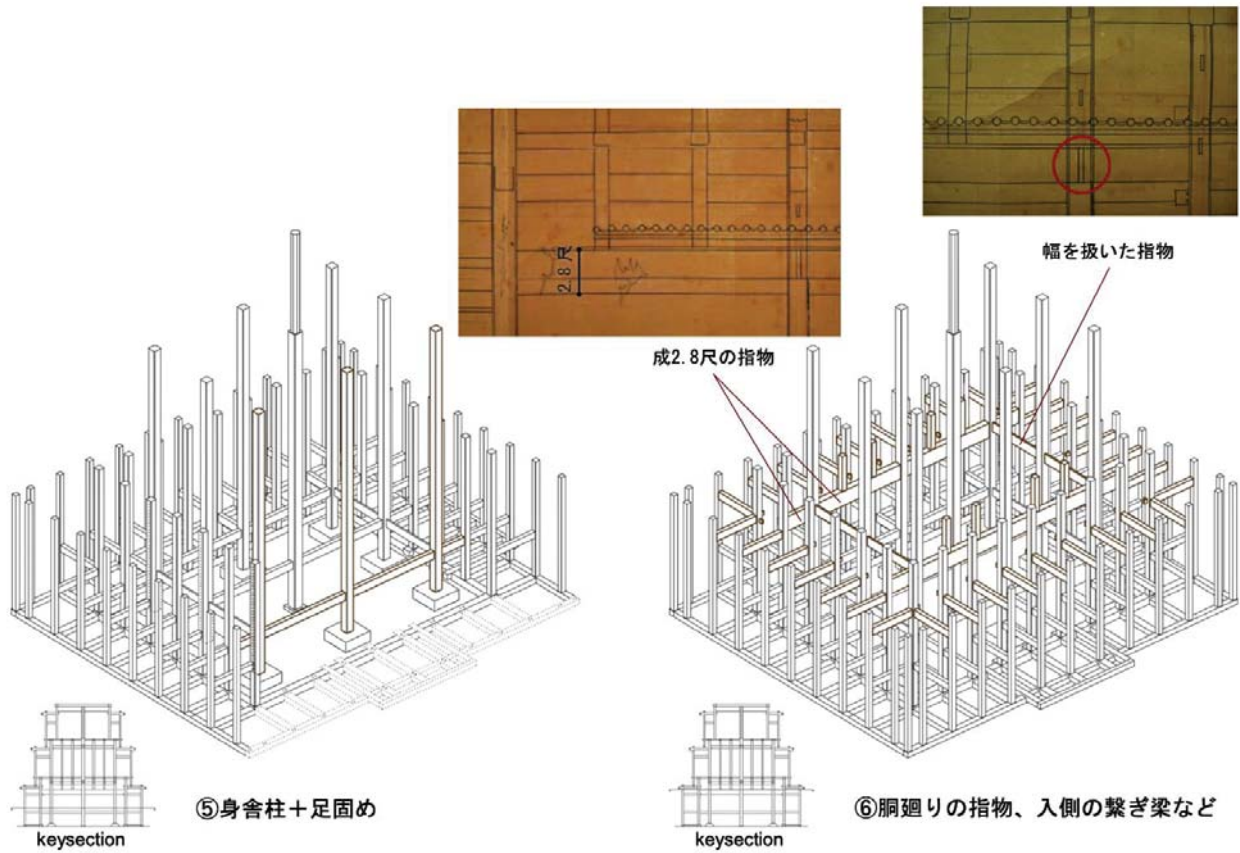
そして③側柱と足固めを納めながら入側を自立させていきます。側柱が先だったかもしれませんが、いずれにしろ身舎部分がある程度組み上がらないと東側の軸部は納められなかったのではないかと考えました。次に④身舎柱や心柱などを建てながら足固めを納め、入側と繋いでいきます。身舎柱は計 8 本しかありませんので、入側部と身舎部の接合の程度は薄いと言わざるをえません。

第 18 回 「東博模型」と「引図」からみた軸部の組み立て方について②

前回に引き続き天守の組み立て方についてご紹介していきたいと思います。個人的には必ずしも腑に落ちる架構とは言えませんが、かなり用意周到に組んでいるなという印象で、特に 3 階床組は非常に興味深い架構だと思っています。

2 階から 3 階

⑤東側の身舎柱を繋いだところで、外周部分で残った側柱などを納めます。次に 3 階の床組を造っていきませんが、第 8 回で見たように、床梁が数段になっていますのでまず⑥最下段の成 2.8 尺の指物を納めていきます。梁間には幅を扱いた指物も入ります。



次に⑧心柱への指物や初重の敷桁、柱盤（2 重目の柱用の土台）を納めていきます。桁行方向だけではなく、下図の赤丸で囲んだように梁間方向にも梁をかけます。絵として描くと、ちょっと大袈裟なくらいにかなりがっちりと組んでいるような印象を受けます。